

# 隼人族の森を渡る風

創造の現場から 第25回

森の彫刻家 上床利秋

## 銅像を建てる意味が凄い

かつてソ連が崩壊してロシアになった時レーニングランドという都市は、レーニンの銅像が倒されてサンクトペテルブルグという都市名に変更された。そしてまたイラク戦争で米兵によって引き倒されたサダムフセインの銅像も、時代の変わる象徴としてテレビで繰り返し放送されていた。

彫刻家の私にとってこの二つの「事件」は、歴史的な背景を理解しており納得してはいるつもり。しかしその国の代表的な作家さんが丹精込めて造ったであろう美術品は、破壊されるといふショックな行為を時代は正当化していた。私はやるせない気持ちを感じます。焚書坑儒は蛮行として揶揄されるが、銅像を壊す蛮行はあまり非難されないのです。戦争画を描いた藤田嗣治は、敗戦国に

せいではなく、戦争という狂気がさせることなのに。

しかしながら、わが郷土の西郷どん、大久保どん銅像は時間が経って今なお人々に愛されて堂々と立っている。いつの時代を超えても愛される理由はやはりその人の「人格」というものなのだろう。

私は今、沖永良部島で海陸航空事業を営むY氏から銅像制作の依頼を受けて3メートルの粘土原型を制作している。銅像の制作依頼理由は様々で違ふけれども、今回は本人の銅像であり、その理由が興味深いものと思えた。

沖永良部空港がすぐ近くに見える230坪の土地を私設の公園にしてその中央に銅像を建てるのだとおっしゃる。尊敬する五代友厚のような立派な銅像を建ててその像の姿に恥じない生き方を指す指針にされるそうである。

Y氏は財団を設立し、これまで10年間沖永良部島出身者の、その年最も活躍された個人と団体をそれぞれ毎年表彰し副賞に50万円を授与されてきた。夏には盛大なパーティーも行つ。そしてまたその活動は、向こう30年間は続けるつもりであるという。それを証拠に私にブロンズ製のレリーフ楯制作を60個



沖永良部島の形をデザインしたオリジナル楯。台座に銘板を取りつける。

依頼された。昼食をともにしながら、二人の息子さんたちに諭すように自分の気持ちを語られた。おそらく、70歳の自分がいつまで元気であり続けるかわからないがその意志は継いでほしいという願いを

いただきましたものである。

ところで振り返って自分自身を省みる。私に人を心から尊敬し、感動して精一杯の彫刻を芸術の域に高めることができているのか。教師としてはどうか。

自問自答しながら、今日もまたアトリエに向かう。

日展会員 第一幼児教育短期大学 教授

ホームページ刷新しました。

<https://douzou.jp/>

上床利秋

検索

このページのバックナンバーも読むことができます。



3m心棒組み上げ



1m縮小模型



30cmエスキース

込めて。

氏はまた60歳になつてから琉球舞踊を学び始め、一座を旗上げされて毎年各地で公演されてきた。伝統文化の保存にも貢献されているのだから立派なものである。5年後、10年後の計画も持つておられるようだ。今年春の叙勲で表彰された氏が沖永良部島の人々に愛されて益々立派で幸福な人生を送つて



あけましておめでとうございます  
著作作 干支「猪」

戦国に治は、敗  
なつてしま  
と日本を  
を追わ  
れて二  
度と帰  
らなか  
った。そ  
れは芸  
術家の